
日経フォーラム 国際金融フロンティア
日本繁栄へのシナリオ
個人金融資産 貯蓄から投資への道筋

明治大学専門職大学院
グローバル・ビジネス研究科
専任教授 沼田優子

資産運用立国の岐路にたつ我が国

資産運用立国が目指すべき長期分散投資

- = 「一般に受け入れられている投資理論に基づく」運用
- = 保守的なプロ（つまり年金）の運用手法を規範とする
- = ポートフォリオ全体の運用成績の最大化を目指す運用、銘柄選択よりもアセット・アロケーションやリバランスに注力した運用
- = （特に投資初心者の場合は）積立による長期分散投資

従来型の短期集中投資

- = 相場観に基づく投資
 - = 儲かる銘柄への単品投資
 - = 上昇相場を期待して、売買の「タイミング」を見計らう投資
- いずれも投資手法としては一般的だが、投資のベテランに適した投資方針
投資初心者の手には負えない可能性があることが課題

米国の投資信託の購入経路は確定拠出年金等と証券のアドバイザー

投資信託の購入経路

投資信託を保有する米国世帯に占める割合 (%)

「それ以外」のみ

27

確定拠出年金等と
「それ以外」の併用

45

確定拠出年金等のみ

28

「それ以外」の購入経路

投資信託を保有する米国世帯に占める割合 (%)

48%
証券のアドバイザーのみ

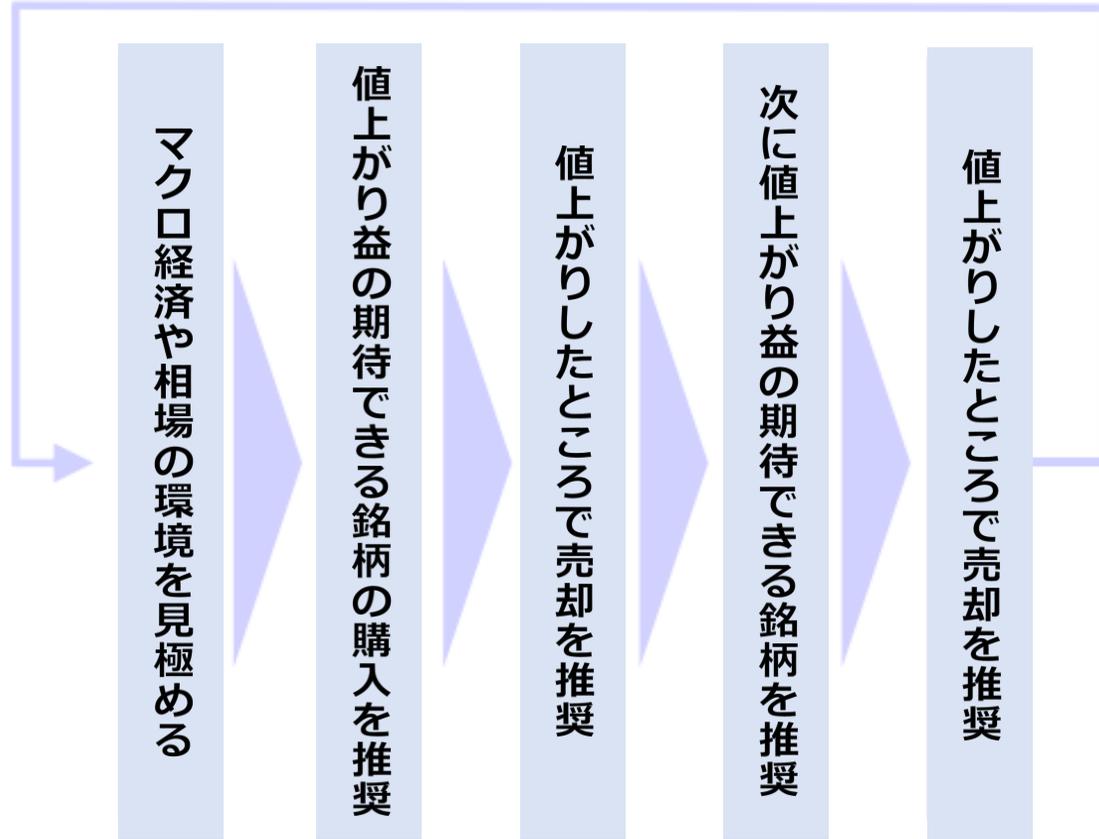
13%
わからない

20%
投資信託会社、ネット証券のみ

19%
証券のアドバイザー、投資信託会社、ネット証券

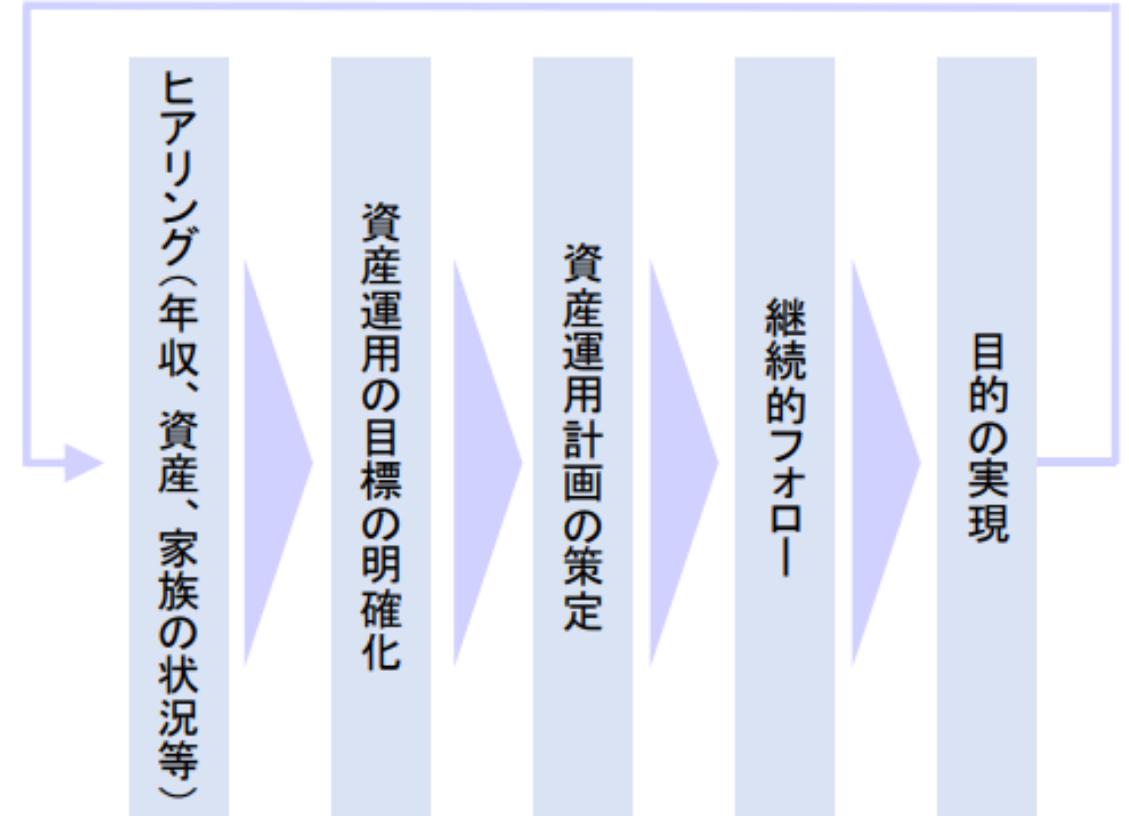
日米で変化する投資方針

従来型アドバイスの流れ



短期集中投資

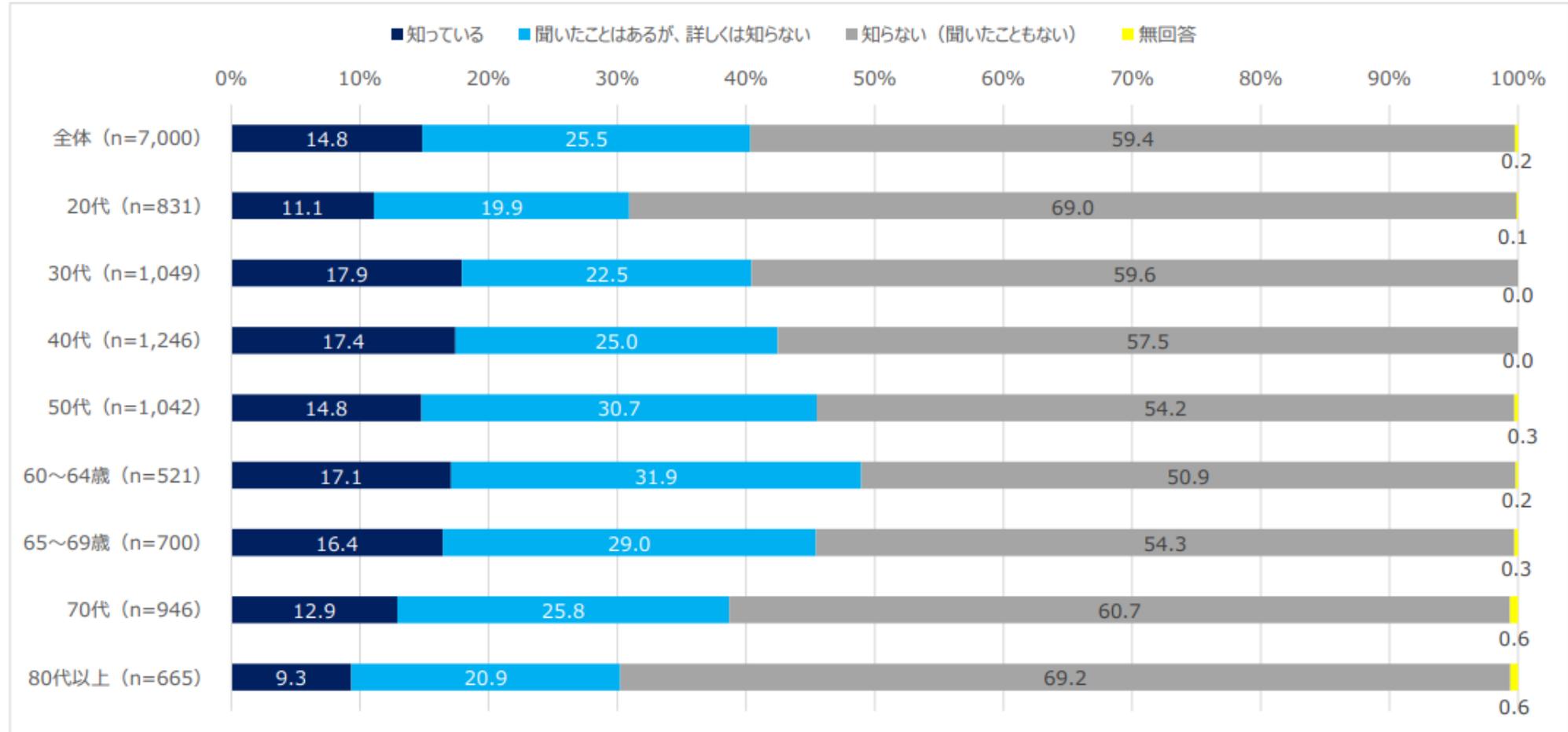
目指すべきアドバイスの流れ



長期分散投資

我が国における長期分散投資の認知度は低い

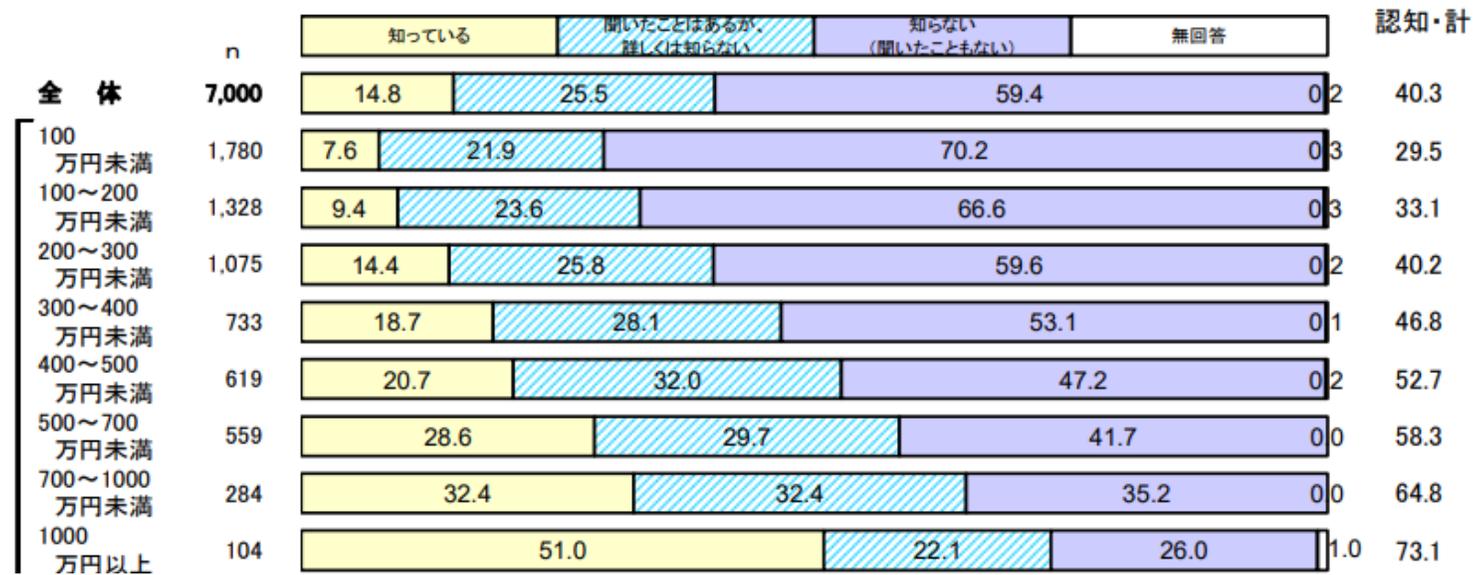
○「長期投資」・「積立投資」・「分散投資」がリスクを減らすのに有効ということの認知状況



- 「長期投資」・「積立投資」・「分散投資」がリスクを減らすのに有効と認知しているのは14.8%。「聞いたことがあるが詳しくは知らない」は25.5%。
- 年代別でみると、60～64歳の認知度が高い。

投資方針の違いは「投資洗練度」の違いか

年収に応じて「長期投資」・「積立投資」・「分散投資」がリスクを減らすのに有効ということの認知が高まる

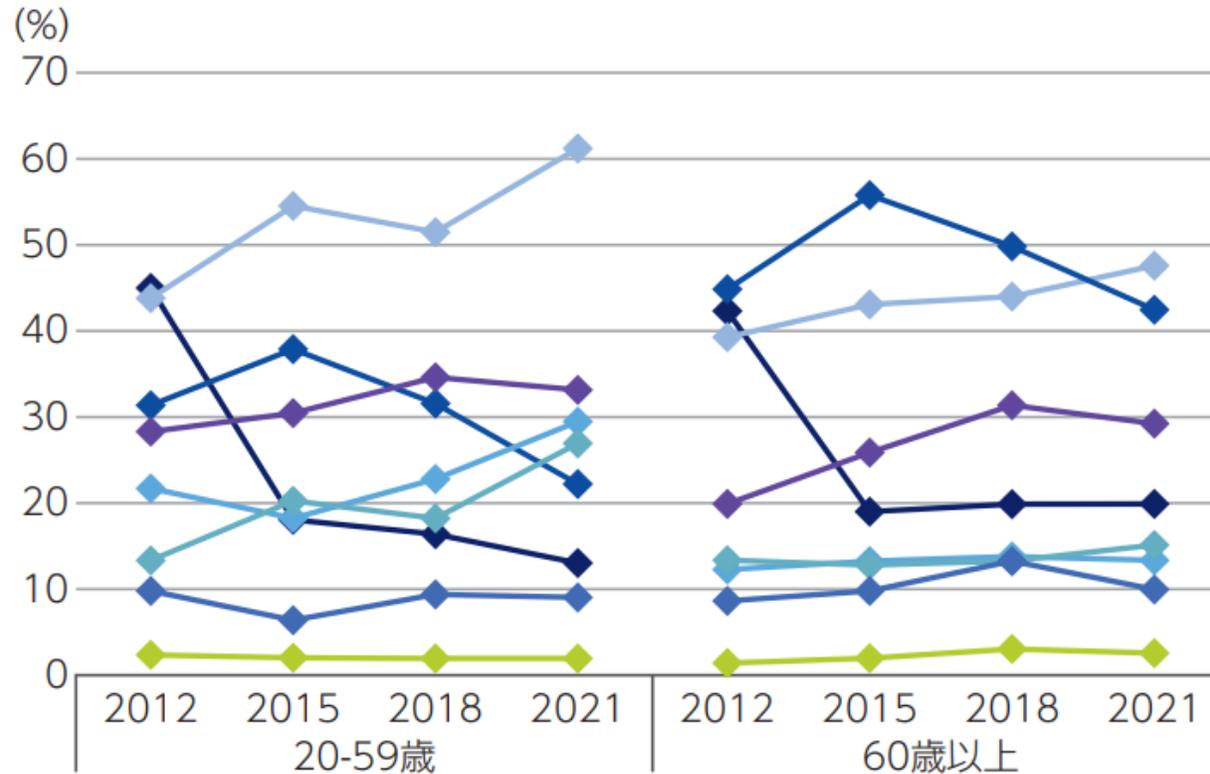


金融リテラシーに応じて長期投資性向が高まる (投資信託保有者) (%)



我が国の現役世代に変化の兆し

投信の購入理由



- ◆ 短期の値上がり益を期待して
- ◆ 定期的に分配金が受け取れるから
- ◆ 比較的少額でも投資できるから
- ◆ 投信の購入を通じて社会貢献ができると思ったから
- ◆ 専門家の運用に期待できるから
- ◆ 長期にわたっての資産運用として
- ◆ 積立で投資ができるから
- ◆ 分散投資ができるから

(出所) 「証券投資に関する全国調査」(日本証券業協会)